

**EFEKTIVITAS PENGGUNAAN METODE *BRAINDIS-BUZZ GROUP* DALAM
MENINGKATKAN KETERAMPILAN BERBICARA BAHASA JEPANG**

**(Penelitian Eksperimen Murni Terhadap Mahasiswa Tingkat III Departemen
Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI)**

Annisa Annur

1306444

Abstrak

Keterampilan berbicara (*kaiwa*) memiliki kedudukan yang sangat penting dalam pembelajaran bahasa Jepang. Namun tidak mudah bagi mahasiswa untuk menguasai keterampilan tersebut, karena keterampilan berbicara memerlukan pengetahuan tentang bahasa yang digunakan seperti tata bahasa, kosakata, penggunaan fungsi tertentu dan keterampilan untuk berkomunikasi. Oleh karena itu, diperlukan sebuah metode yang dapat mengatasi kesulitan mahasiswa dalam pembelajaran berbicara bahasa Jepang. Penelitian ini bertujuan untuk mengetahui efektivitas penggunaan metode *Braindis-Buzz Group* dalam meningkatkan keterampilan berbicara bahasa Jepang. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode eksperimen murni atau *true experiment* dengan pola "*The randomized posttest only control group design*". Populasi dalam penelitian ini adalah 25 orang mahasiswa tingkat III Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI. Masing-masing terdiri dari 15 orang sebagai kelas eksperimen yang menggunakan metode *Braindis-Buzz Group* dan 10 orang sebagai kelas kontrol dengan menggunakan metode presentasi. Instrumen yang digunakan dalam penelitian ini adalah tes dan angket. Selain dinilai dari hasil *post-test*, keterampilan berbicara mahasiswa juga dinilai dari tes yang diberikan pada setiap pertemuan. Setelah dilakukannya analisis data tes, nilai rata-rata yang diperoleh pada kelas eksperimen mengalami peningkatan, sedangkan pada kelas kontrol mengalami sedikit peningkatan namun mengalami penurunan pada pertemuan yang telah dilakukan. Selain itu, dilihat dari hasil *post-test* diperoleh nilai *t* hitung lebih besar dari *t* tabel, maka hipotesis kerja dalam penelitian ini diterima dengan kata lain metode ini terbukti efektif karena terdapat perbedaan yang signifikan terhadap keterampilan berbicara bahasa Jepang mahasiswa setelah diberikannya perlakuan dengan menggunakan metode *Braindis-Buzz Group*. Hal ini juga diperkuat dengan hasil analisis data angket yang menyatakan bahwa metode ini efektif dan menarik untuk dapat membantu meningkatkan keterampilan berbicara bahasa Jepang.

Kata kunci : Efektivitas, metode *Braindis-Buzz Group*, keterampilan berbicara Bahasa Jepang.

THE EFFECTIVENESS OF BRAINDIS-BUZZ GROUP METHOD TO IMPROVE JAPANESE SPEAKING SKILLS

(True Experimental Research Toward Three Grade Students of Japanese Education
Departement of Indonesia University of Education)

Annisa Annur

1306444

Abstract

Speaking skills have a very pivotal aspect in learning Japanese. Because speaking skills require the knowledge about the language (such as grammar, vocabulary, some special function) and knowledge to communicate or how to deliver the message. But in the other hand, it's really hard to master speaking skills. Therefore, it is necessary to use a method which can solve those problems in learning Japanese, especially in speaking lessons. The purpose of this research is to know about the effectiveness of using Braindis-Buzz Group method to improve Japanese speaking skills. The method that was used in this research is True Eksperimental method with The Randomized Posttest Only Control Group Design. The population is 25 students of Japanese Education Department in three grade of Indonesia University of Education. The population are divided into two groups which is 15 students in experiment group and 10 students in control group. Experiment group used a Braindis-Buzz Group method, but control group used presentation method. The instrument of this research is test and questionnaire. Students speaking skill is rated by posttest result and test after every lesson. The data result showed that experiment group has been increased in every lesson, but control group slightly improved and also decreased in some lessons. Through the posttest result t count is more than t tabel, so hypotheses work on this research. Which means this method is effective because there is significant differences about Japanese speaking skill between the group that used Braindis-Buzz Group method and the group that did not use this method. This is also reinforced with the result of questionnaire analysis that showed most of the students said this method is effective and interesting to increase Japanese speaking skills.

Keyword : Effectiveness, braindis-buzz group method, Japanese speaking skills.

日本語の話す能力の向上における Braindis-Buzz Group 法の使用効果

(インドネシ教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の三年生に対する実験研究)

アンニサアヌル

1306444

要旨

話す能力は日本語の学習で一つの大事な点である。話す能力は使用する言語の知識が必要である。例えば、文法と単語とメッセージを伝えるの能力が必要である。しかし、学習者にとって、日本語で会話のことは難しいと言われている。また、日本語を話すとき、学習者は自分自身が持っていない。このため、研究者は「日本語の話す能力を高めるための Braindis-Buzz Group 法の使用の効果（インドネシ教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の三年生に対する実験研究）」について研究した。研究のもくてきは Braindis-Buzz Group 法を使用すると、日本語の話す能力の向上させること Braindis-Buzz Group 法を対して、学習者は授業内で日本語の学習でこの学習の方法使用した後の印象を知るためである。本研究の方法として実験的なを使用し、研究のデザインは The Randomized Posttest Only Control Group Design である。サンプルはインドネシ教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の三年生で、25 名である。それで、実験クラスは 15 名とコントロールクラスは 10 名である。実験クラスの中に Braindis-Buzz Group 法を使用して、コントロールクラスは発表法を使用する。研究の機械はテストとアンケートである。学生の話す能力は事後の結果とトリートメント後のテストから評価する。それで、この Braindis-Buzz Group 法を使用したあと、学生の話す能力を知るためである。データを分析した結果から、実験クラスは学生の話すの能力が上がるということが分かった。だが、コントロールクラスでは学生の話す能力が下がるということも分かった。そして、データを分析した結果から、t 得点は t 表より高いので、仮説が受けられる。アンケートの分析結果に基いては、かなり多い学習者は Braindis-Buzz Group 法使用した後日本語の話すことは簡単になり、面白く、それで日本語の話すを練習するメソッドになることが分かった。

キーワード：効果、Braindis-Buzz Group 法、日本語の話すの能力。

日本語の話す能力の向上における **Braindis-Buzz Group** 法の使用効果
(インドネシ教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の三年生に対する実験
研究)

アンニサアンヌル

1306444

A. はじめに

この研究の背景は最初の観察で学習者は日本語の会話を勉強する時に話す能力について問題がたくさん見つけた。例えば、会話の授業で学習者の話す活動はひくくて、学習者もアイデアをつながることのもんだいがある。それで、学習者は日本語を話す時に、大体学習者は何か与えたいことがあまり分からない、学習者の自分自身もっていない、だから何かしたいことを伝えない。そして、会話の授業で学習者はあまり話さないの理由は学習者が文法と単語と発音も間違いのことを恐れる。その一方で、一日に日本語を話せるはあまり練習しない、単語の知識も少ない、日本語を話すことは難しくなる。次の問題は、言語の学習者では、とくに日本語の学習者には日本語で話す時、学習者は最初インドネシア語から日本語に翻訳すると、だから日本語で話す時には躊躇するになる。

この問題を解決するため、授業でたくさん学習者のアクティビティを巻き込むのメソッドが必要である。このメソッドは学習者のアクティビティと学習者の自身も上がらなければならない。したがって、学

習者を楽しみと効果的な方法が重要である。その一つの方法は **Braindis-Buzz Group** という方法である。Braindis-Buzz Group 法は二つの方法を一つに纏まる学習方法である。一つ目は **Braindis (Brainstorming and discovery)** という方法で、二つ目は **Buzz Group** という方法である。本研究の目的は日本語の話す能力を上げるために、Braindis-Buzz Group 法を使用する調べるためである。また、Braindis-Buzz Group 法に対するに学習者の印象を知るためである。

本研究の問題は(1) **Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、実験クラスの日本語の話す能力はどうであるか。(2) **Braindis-Buzz Group** メソッドを使用せず、コントロールクラスの日本語の話す能力はどうであるか。(3) 実験クラスとコントロールクラスの間有意差はどうであるか。(4) **Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、実験クラスの印象はどうであるか。

本研究の目的は(1) **Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、実験クラスの日本語の話す能力を知るためである。(2) **Braindis-Buzz Group** 法を使用せず、コントロールクラスの日本語の話す能力知るためである。(3) 実験クラスとコントロールクラスの間有意差を知るためである。(4) **Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、実験クラスの印象を知るためである。

それで、本研究の方法は **True Eksperiment** 方法である。この方法のデザインは **The Randomized Posttest Only Control Group Desain** だった。

実験方法に実験クラスとコントロールクラスがある。データを得るために、テストとアンケートを使う。本研究は五回であった。四回はトリートメントで、事後テストがある。だが、学生の話す能力は事後の結果とトリートメント後のテストから評価する。したがって、毎回トリートメントをした後テストがある。それで、実験をした後とアンケートとを与えた。

研究のデザイン：

R	X1	O1
R	X2	O2

R : サンプル

X1 : 実験クラスのトリートメント

X2 : コントロールクラスのトリートメント

O1 : 実験クラスで事後

O2 : コントロールクラスで事後

(Syamsuddin & Damaianti, 2006,159 ページ)

本研究の対象者は UPI の日本語の学科三年生である。また、サンプルは 25 名の学生であり、実験クラスとして 15 名とコントロールクラスとして 10 名である。本研究のデザインは random sampling を使用する。実験クラスは Braindis-Buzz Group 法を使用するクラスだが、コントロールクラスは発表法を使用しないクラスである。実験クラスとコントロールクラスはインタビューモデルを使

用する。定性のデータを分析するために、Comparison Statistic を使用する。教育の研究では日本語教育も一つの変数と他の変数の間に有意差を決めるために Comparison Statistic を使用することができる(Sutedi, 2011, 228 ページ)。

B. 研究の結果

1. 毎回トリートメントテストの後

	実験クラス	コントロールクラス
一回のトリートメント	74,13	73,5
二回のトリートメント	78,87	73,6
三回のトリートメント	80,2	72,5
四回のトリートメント	82	72,3
平均	78,8	72,9

データを分析した結果から、実験クラスは最初のトリートメントから四回トリートメントまでの平均点は 74.13, 78.87, 80.2,

82 である。コントロールクラスのは最初のトリートメントから四回トリートメントまでの平均点は 73.5, 73.6, 72.5, 72.3 である。この結果を見てから、実験クラスは学生の話すの能力が上がるということが分かった。だが、コントロールクラスでは学生の話すの能力が下がるということも分かった。

実験クラスは最初のトリートメントで学習者は大きいグループディスカッションでまだ少し緊張した。だが、小さいグループディスカッションで学習者はたくさん話して、あまり緊張しなかった。二回のトリートメントで学習者は **Braindis** 法の時いろいろな意見を話した。学習者は大きいグループディスカッションと小さいグループディスカッションたくさん話して、ほかの学習者の前で自分の意見を大胆な話すで伝えた。だが、学習者は自分の意見をほかの人に伝えるのは恥ずかしいという感じもまだあった。それで、三回のトリートメントで学習者の自信は増えて、学習者の話すアティビテイも増えになった。ディスカッションの時学習者はたくさん尋ねた。そして、四回のトリートメントで大体学習者は話す能力が上がって、自信が増えて、それで学習者は練習の間にたくさん話した。

コントロールクラスは最初のトリートメントで学習者は発表の時少し話した。それで、質問のセッションに学習者はあまり質問しなかった。二回トリートメントで学習者の話す能力が少

し上がった。このトリートメントで学習者はたくさん話して、ディスカッションの時に質問の人がいった。そして、三回のトリートメントで大体学習者は授業の間に退屈というかんじて、話す能力も下がってしまった。それで、四回トリートメントで学習の間に話すのアクティビティは増えなかった。学習者の自信もあまりいないから、話す能力も少し下がってしまった。

2. ポステストの結果

	実験クラス	コントロールクラス
Mean (M)	81,13	72,1
Standar Deviasi (SD)	2,61	2,56
Standar Error Mean (SEM)	0,70	0,85
SEMxy	1,42	
t 得点	6,36	

Braindis-Buzz Group 法使用してから有意差がある。このことは統計の計算によると計算の t 表は高いであることがわかった。データの分析した結果から、事後のテストの平均点の実験クラスは 81,13 だが、コントロールクラスの平均点は 72,1 である。t 得点は 6,36 であり、db=23 の t 表(5%=2,07)と (1%=2,81)ので、Hk

が受けられ、 H_0 が拒絶される。すなわち、 X 変数と Y 変数の間に有意差がある。その結果は **Braindis-Buzz Group** 法が日本語の話す能力を向上させる。

研究に得られた結果から、たくさん利点があるということが分かった。**Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、学習者の話すアクティビティは増えて、自分の意見も大胆に伝えた。練習がたくさんあるので、学習者は日本語の話す時流暢になった。**Braindis-Buzz Group** 法の中で大きいグループディスカッションと小さいグループディスカッションがあるから、学習者はほかの人にインフォメーションと新しい単語がたくさん得た。それで、**Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、学習者の自信がふえ、それで学習者の日本語の話す能力は高まった。だが、**Buzz Group** 法使用したい時、適当なテーマが重要である。それで、**Buzz Group** 法を使用すると、教師は資格能力を持っていることが必要である。

3. アンケートの結果

アンケートを使用したデータを分。した後で、実験クラスに **Braindis-Buzz Group** 法を使用する印象はどうであるかを知ることである。全て学習者は学習に当たって **Braindis-Buzz Group** 法の使用によっては日本語の話すが面白く、簡単になり、それで日本語の話すを勉強する方法になるということが分かった。

C. 終わりに

1. データを分析した結果から、実験クラスの学習者は日本語の能力は最初のトリートメントテストから四回トリートメントテストまでの平均点は上がるということが分かった。
2. コントロールクラスの学習者は日本語の能力は最初のトリートメントテストから四回トリートメントテストまでの平均点は下がるということも分かった。実験クラスの学習者はコントロールクラスクラスの学習者より日本語の話す能力が高いということが分かった。
3. 事後テストのデータの分析から、日本語の話す能力は **Braindis-Buzz Group** 法を使用後、実験クラスとコントロールクラスは有意差がある。t 得点は t 表より高いので、本研究に **Hk** が受けられた。その結果は実験クラスとコントロールクラス間に有意差があるとわかった。
4. アンケートの分析に結果から、かなり多くの学習者は **Braindis-Buzz Group** 法を使用した後、日本語の話す練習は面白くなり、学習者の自信もふえ、学習者の日本語の話す能力も高まった。それで **Braindis-Buzz Group** 法は話すの学習で効果的だと考えられる。

D. 参考文献

- Arikunto, S. 2006. *Prosedur Penelitian: Suatu Pendekatan Praktik*. Jakarta: PT Rineka Cipta.
- Sabili. 2015. *Peningkatan Kemampuan Berbicara dengan Metode Braindis (Brainstorming dan Discovery) pada Pelajaran Bahasa Indonesia Materi Cerita pada Siswa Kelas V SDN Karduluk 1 Pragaan Sumenep*. Surabaya: Skripsi Fakultas Tarbiyah Universitas Sunan Ampel.
- Sukmadinata, S. 2012. *Metode Penelitian Pendidikan*. Bandung: PT Remaja Rosdakarya.
- Syamsuddin, dan Damaianti. 2006. *Metode Penelitian Pendidikan Bahasa*. Bandung: PT Rosda Karya.
- Sutedi, D. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.